



室内に建つ 不思議な 大型実験室 クリーンブース

これが「クリーンブース」。4畳半ほどの広さの実験室に、1畳程度の前室がついています。実験室内には、空気を動かすためのファンと、テストする空気清浄機がボツリ。

超音波発生器で糸状菌の自然な飛散を再現

前室に置かれた、このガラスのポンプのようなものが、実験の心臓部「超音波発生器」。ここからカビを吸い込み、実験室内に超音波で飛散させます。「例えば噴霧器で飛散させると、湿気と一緒にカビが下に落ちてしまいます。自然な室内の状況を再現するためには超音波の方が好ましいのです」(川上さん)



真菌の管理も、正しい結果を得るためには大切

これが飛散させる真菌(カビ)。実験で使うカビは種類が定められていて、大切に保管されています。実験では、何も無い状態、空気清浄機を使った状態、さらに付加価値がうたわれたフィルターを使った状態などでカビ胞子を飛ばし、効果を測定します。



番外

実験を始める前から工夫の連続

よく見るとクリーンブースの壁面にはダブルクリップがズラリ!「密閉が必要なクリーンブースを、手早くキチンと組み立てるための工夫です。ダブルクリップで留めてから、裏側にテープを張るんですよ」(堀さん)。なるほど～!



やって来たのは東京・天王洲の近代的ビルにある、エフシージー総合研究所本社。今回のナビゲーターは、環境科学研究室室長の川上さんと商品研究室室長・堀さんです。

一歩中に入ればキッチン設備あり、化学実験室のような小部屋あり、メーカー用品が並ぶ楽屋風の部屋あり。普通のオフィスを予想していると、不思議空間が次々と現れます。最後にたどり着いた実験室の中には、ブレハブ小屋のような大きな建物がある!

「私たちは、商品テストから料理メニューの開発まで非常に幅広い活動を行っています。このブレハブも研究施設のひとつで、日

となりの研究所 エフシージー 総合研究所 編

①

正しい商品情報を伝えるため 今日も実験&研究は続く

くらしHOW研スタッフが異業種の研究所を訪ねる「となりの研究所」。まずは3回連続で「エフシージー総合研究所」を紹介。フジサンケイグループの研究所としてはHOW研のお姉さん格、商品テストの実力派研究所です。

本でも数少ない組み立て式のクリーンブースという実験装置です」と堀室長。では、今日は空気清浄機のテストですか?

「実験の説明の前に、皆さん、空気清浄機やエアコンのカビなどの浮遊微生物除去性能には、業界共通の評価方法がないことをご存知ですか?」と問いかける川上さん。え?ありませんよね。だって、いろいろなメーカーが、空気中のカビの除去機能を競っているじゃないですか。

「そう思っている人が多いのですが、ホコリやニオイの除去については日本電機工業会の基準があります。でも、カビなどの

真菌やダニなどの除去については、客観的な共通の評価法がないのが実態です。それを確立するため、現在、室内環境学会のプロジェクトとしての実験を行っているのです。驚きました。単なる商品テストではなく、驚きの連続です。

「アレルギーなどの健康問題が深刻化し、消費者の微生物に対する衛生意識も高まっています。でも、誤解や思い込みが多いのも事実」と川上さん。科学的根拠のある、正しい商品情報を消費者に伝える…そのために必要な研究を担うのも、エフシージー総研の大切な役割なのですね。



ナビゲーター

エフシージー総合研究所
フジテレビ商品研究所 暮らしの科学部

環境科学研究室室長 農学博士

川上 裕司さん(左)

商品研究室室長

堀 洋一郎さん(右)